

# 1 研究の概要

## (1) 研究テーマ

音楽の特徴を捉えて音楽を聴き味わうことができる児童生徒の育成  
—鑑賞学習における〔共通事項〕を支えとした言語活動の充実を通して—

## (2) 研究テーマ設定の趣旨

### 学習指導要領において求められている音楽科教育の在り方

音楽科においては、平成20年の小・中学校学習指導要領で、今までの表現、鑑賞の指導内容に加え、表現と鑑賞の各活動の中で行う〔共通事項〕が示されました。〔共通事項〕アでは、小学校においては「音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること」、中学校においては、「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること」と示されています。小・中学校が内容の連続性に配慮しながら、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力を育成することが求められています。

### 小・中学校における児童生徒の実態と指導の現状

平成20年度に国立教育政策研究所が小学校第6学年の児童約3,000人と中学校第3学年の生徒約3,000人を対象に実施した「特定の課題に関する調査(音楽)」では、次のような結果が示されています。①小学校では、4つの部分から成る音楽を聴き、どのような様子が表されているかについて記述できた児童が73.9%だったのに対し、その音楽の強弱の変化をとらえて記述した児童は20.8%でした。②中学校では、音楽を聴いて紹介文を記述する問題で、気持ちや想像したことを記述できた生徒が76.3%だったのに対し、音楽の要素を2つ挙げ、音楽の移り変わりに触れて具体的に記述するなどの条件を満たした生徒は33.8%でした。これらのことから、音楽を特徴付けている要素や楽曲の構成を聴き取り、それらと関わらせて感じ取った曲想を言葉で表すことに課題がみられるといえます。

また、国立教育政策研究所が平成24年度に実施した「小学校学習指導要領実施状況調査」においても、楽曲全体を通して感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて楽曲の特徴を言葉で適切に表すことには一部課題があることが報告されています。また、「教師質問紙調査」では、「〔共通事項〕に着目した指導をしていますか」の問いに肯定的な回答が87.2%だったのに対し、「〔共通事項〕の中で指導しにくい要素がありますか」の問いに「ある」という回答が74.0%であったことが報告されています。

学習指導要領全面実施から小学校では4年、中学校では3年が経過し、学校現場では〔共通事項〕を支えとした指導が定着してきています。しかし一方で、言葉で表すことなどについては依然として課題があることが分かります。

### 本研究の目的

上記の現状と課題から、想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて言葉で適切に表す指導の充実を図り、音楽の特徴を捉えて音楽を聴き味わうことができる児童生徒の育成につなげたいと考えます。そのためには、小学校における中学校での学習を見通した指導、中学校における小学校での学習を踏まえた指導を円滑に行うことができるようにする必要があります。まずは、小・中学校の〔共通事項〕の関連付けを図り、系統について整理することが大切だと考えます。特に、中学校で指導する「構成」「形式」「テクスチュア」が、小学校における〔共通事項〕とどのような系統性があるかということについての考えを示し、小・中学校での指導に生か

すことができるようにします。また、鑑賞学習において、〔共通事項〕を支えとした言語活動を充実させるために、児童生徒の発達段階に応じて、指導する〔共通事項〕やその示し方を工夫するとともに、児童生徒の交流活動を工夫したいと考えます。

### (3) 研究の方法と内容

- ア 学習指導要領や様々な文献を基に、小・中学校の各段階で取り扱う〔共通事項〕を系統的に整理するとともに、〔共通事項〕を支えとした言語活動についての先行研究を調査する。
- イ 小学校 4 年児童と中学校 1 年生徒を対象に、〔共通事項〕の理解と交流活動に対する意識についての質問紙調査を実施する。
- ウ 小学校 4 年では主に「音楽の仕組み」の「反復」「変化」、中学校 1 年では主に「形式」「構成」「テクスチャ」を取り扱った鑑賞題材を考案し、検証授業を行う。また、対象児童生徒に、授業の前後で鑑賞テストを実施し、検証授業の分析と合わせて、題材構成や指導の手立てが有効であったかを検証する。